

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年5月9日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
検証テーマ： オープニング、検察が大型連休に河井議員夫妻を任意聴取 【特集】 緊急事態宣言延長で苦しむ人々		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急事態宣言延長からはじめての週末</li> <li>・ オープニング</li> <li>・ 東京都の新たな感染者 36 人</li> <li>・ カリフォルニア州の一部の店舗で営業再開</li> <li>・ アメリカの副大統領報道官もコロナに感染</li> <li>・ ニューヨーク州で川崎病に似た症状の男児が死亡</li> <li>・ アメリカ FDA が唾液検査を緊急許可</li> <li>・ スウェーデンで死者が 3000 人超</li> <li>・ 韓国ソウルで第二波を懸念した集合禁止命令</li> <li>・ アメリカの失業率がコロナで戦後最悪</li> <li>・ 石川県がマスク購入券を全家庭に配布</li> <li>・ インディアナ州で小学校の教え子とビニール越しのハグ</li> <li>・ 検察が大型連休に河井議員夫妻を任意聴取</li> <li>・ 江戸川区での男子中学生ひき逃げ死亡事件</li> <li>・ 豊島区で姉妹と見られる 2 遺体が発見される</li> <li>・ 【特集】 緊急事態宣言延長で苦しむ人々</li> <li>・ 【特集】 失語症～途切れた言葉の糸</li> </ul>		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープニング：結論→特に問題なし                      金平キャスターが番組冒頭で「世の中がコロナウイルス関係のニュースで覆われている間に国会である動きがありました。内閣の判断で検察庁の幹部の定年を延長できるようになる、検察庁法改正案の委員会審議が昨日始まりました。あえて申し上げますが火事場泥棒という言葉思い出しました。」とコメントしていた。                      このトピックに当てられた時間は 19 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・ 検察が大型連休に河井議員夫妻を任意聴取：結論→特に問題なし                      日下部キャスターの「自民党、河井案里参議院議員の去年の選挙を巡って検察が大型連休中に河井議員夫妻を任意聴取していたことが分かりました。」とのコメントを受けて、VTR が取り上げられるとともにナレーションによって「関係者によりますと検察は大型連休中に案里氏と夫の克行前法務大臣を任意聴取したということです。検察は河井銀夫夫妻が参院選前に広島県内の地方議員などに現金を配ったかや目的などについて操作していると思われる、聴取では二人に説明を求めた模様です。二人は関与を否定したと見られます。案里氏の去年の選挙を巡って検察は複数の自治体トップや多くの地方議員から任意で事情聴取した他、県議会などを検索。現金授受を否定</li> </ul>		

する議員らがいる一方で、これまでに安芸太田町長が克行氏から現金入りの封筒を受け取ったことを認め、辞任しました、JNN の取材では複数の地方議員が検察の聴取に対し、参院選前に克行氏や案里氏が現金を持参したなどと応えています。河井議員夫妻はこれまでも検察の聴取を受けています。」とのことが伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 79 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 緊急事態宣言延長で苦しむ人々：

膳場キャスターの「特集です。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が、延長されました。」とのコメント及び、金平キャスターの「特に苦境に立たされているのが中小の事業者や生活困窮者です。長期化によって苦しむ人々を取材しました」とのコメントを受けて、以下に朱記した VTR が取り上げられた。

金平「東京・練馬区の私鉄の近くにあるあちらなんですけれども、とんかつ屋さんがあります。創業 50 年の老舗の店でしたけれども、4 月 30 日の夜、火事となって、店の 54 歳の店主が、焼死しました。新型コロナウイルスの影響で、4 月 13 日から臨時休業を余儀なくされていました。今日このように花を手向ける人が沢山いらっしゃいます。」

ナレ「火災から一週間以上経っても、手を合わせる人が絶えない。休業中に亡くなった店主の男性。警視庁は、服に油がかかり、引火した可能性があるとして、原因を調べている。」

ナレ「同じ商店街の人は・・・」

男性「真面目です。地域の先輩ですよ。、 そう言った俺が一生懸命引っ張るぞみたいな、雰囲気をお持ちの方でありましたし、もちろんその年上の方への礼儀とかも、きちっとされている方です。お年寄りにはさっきも言いましたが、本当に親切に接する方だったので・・・」

ナレ「亡くなった男性は、マラソンが趣味で、東京オリンピックの聖火ランナーに選ばれていたという。火災の当日、男性に会ったという、商店街の理事長は。」

商店街振興組合の理事長「ちょっと、なんか悩んでいるような感じで、どうもこのコロナの状況が長続きしそうだと、何かやっていけないみたいな話があって、で、その時に、店をどうしようかって悩んでいるような話でした。そしてその 30 日に届け物があって、お会いした時は、もう商売を辞めると、そんなふうにいわれたので・・・」

ナレ「その数時間後に起きた火災だった。緊急事態宣言の延長で、苦しむ人を追った。」

(CM)

ナレ「今月末まで延長された緊急事態宣言。東京四谷で、55 年続く秋田料理店を一か月ぶりに訪ねた。」

日下部「こんにちは。あつども。こんにちは」

ナレ「この店は、都の救急要請を受け、先月 12 日から、店を閉めている。休業している間も、従業員には給料を払い続けている。」

日下部「大変ですよ。」

大平山酒蔵 総本店 高橋幸夫社長「それは義務ですから。それが出来なくなった時はもう、すいませんごめんなさい店を閉めますよって」

ナレ「人件費以外にも、光熱費や家賃など、月に 50 万円以上かかるという。」

日下部「こういうものを、電源を消すわけにはいかないわけですよ。」

高橋社長「冷凍庫にはもう入っている。冷凍してるわけですから。」

ナレ「現在、申請しているのは、東京都からの協力金のほか、政府からの、持続化給付金。さらに、従業員の休業手当の一部を補償する雇用調整助成金だ。しかし種類を揃えるのは大変だと言う。」

高橋社長「これが、これからやるんですけど、雇用助成金の申請です。これは複雑で、もう 素人じゃ出来ないっ

てこと。社労士さんに頼んで作っていただくしかないなど。」

ナレ「高橋さんは大きな不安を抱えながらも、今月いっぱい休業することを決めた。」

日下部「足りないもの必要な物って言ったら？」

高橋社長「とりあえず運転資金なんですけども、それはそんなこと言ったら昨日みたいにね、しっかりした情報が欲しいですね。そうすればこうみんながついていきますけど、あやふやではね不安ばかりで安心できませんよね。」

日下部「出口戦略みたいなものを？」

高橋三さん「大きな余裕があってやってるところなんて、そんなないですよ。家賃は払えないし、自分たちで食べるものもない。自分で命絶ったりって言うのは、悲しいことだと、そこんところを何とか、普段よりもやってください。」

ナレ「休業によって大きなダメージを受けながらも、声が上げづらく苦しんでいる人たちがいる。」

女性「性風俗産業なんだから貯金あるでしょうとか、結構言われてたんですけども、違うんです。」

ナレ「こう話すのは、先月まで都内の風俗店で働いていた三十歳の女性だ。」

ナレ「店は、東京都からの要請を受け休業し、女性の収入はなくなった。大学時代の奨学金の返済や、家賃などの支払いで、それまでの稼ぎは消えた。」

ナレ「あらたに仕事を探したが、・・・」

女性「派遣先の仕事の、面談しに行きます、で、お仕事って日払いとかね、1日単発でもありますかとお伺いしたら、ないっていう、元々蓄えていたインスタント麺とかも食べてますけどそれでも1日一食」

ナレ「家族とも疎遠なため、頼ることもできず、所持金は一時、底を尽きかけたという」

女性「3000円しかないし、仕事もないし。この高さからなら死ぬるんじゃないかなと思って、本当に死のうと思ったこともあるんですけど。」

ナレ「生活に困っている人が、当面の生活費を借りられる緊急小口資金の貸付を受けようと地元の社会福祉協議会に電話したが、すでに希望者が殺到。対応できるのは6月下旬になると言われた。」

女性「飢え死にしろって言われてますか。って思いましたね。」

ナレ「その後、窓口の増設などが行われ、今月中旬相談に応じてもらえることになったという。」

ナレ「風俗業界で働く女性からの相談を、10年にわたり受けている一般社団法人 GROW as people。今どんな相談が増えているのか。」

Grow As People 相談員「貯金も底を尽きて家賃を滞納しているですとか、明日食べる食費すら1円もないとか。家族と同居されている方、あるいは配偶者と同居されている方の中で、風俗で働いていることを、隠していらっしゃる方って、大変いらっしゃるんですね。彼女たちが周りのサポートを、得やすい状況とは言い難くて、その理由が、やはり立場を明かしづらいお仕事、立場を明かしづらい状況に身を置かれていることなんですね。」

ナレ「緊急事態宣言が出された先月7日、SNSで緊急相談窓口を開設したところ、これまでにおよそ70件ほどの相談が寄せられた。」

相談（SNS）「お客様が来なくて0が続き支払いも全く出来てない状態です。」

相談（SNS）「夜逃げも含めてかなり悩みました。」

Grow As People 相談員「性で働く人たちが、一労働者として当事者たち自身も、それからまわりの人々も、変な色眼鏡をかけずに、コロナで浮き彫りになった課題に、の解決に向けていかなければ、風俗業界で働く人たちの命、あるいは人権というの、どんどんなくなっていくと思っています。」

ナレ「都内の風俗店で働いていた女性に、おととい再び話を聞いた。1ヶ月仕事を探してようやく、営業職の

アルバイトとして働けることになったが、それも一か月だけの短期契約だという。」

風俗店で働いていた女性「今の仕事をしながら、6月から先も、どうにか職を探さないとなどというのがあって、仕事しながら職探しみたいな感じ。そんな感じかな。自粛してくれて言うんだったら、自粛するけど、そのぶん補償をセットしてくださいって言う感じで、(一律給付は)一回ぼっきりの、10万円ではあってほしくない。」

ナレ「新宿でホームレスへの支援活動を長年続ける団体。新宿連絡会。生活困窮者向けの一時宿泊所を運営し、無料で食事も提供している。緊急事態宣言が出されて以降、満室状態になっていると、会の代表は話す。」

新宿連絡会 笠井和明代表「若い人ってのは路上生活がそんな長く続かないんで、それは多くなってますですね。若い人たちが目立ちますね。」

ナレ「この25歳の男性は、住み込みで働いていた職場を、1月前に止めたという。」

男性「こういうバイトルとかで、探したりとか。これとか、1回連絡はしてるんですけど、そっから返事が返って来ない。働きたくないってわけじゃないから、仕事があれば全然いきたいと思いますし、」 325

ナレ「この宿泊所の利用期間は、原則1週間だが、仕事が見つからない人が多いため、連泊を認めざるを得ないという。宿泊所に入って1ヶ月になる別の男性は、」

男性「日雇いとかでも、仕事があれば、多少収入はあるけど、それすらもないから、何もできないですね今。最近はどう、寝てるかスマホいじってるかぐらいしかありませんね。本当に。」

ナレ「新宿連絡会は、公園や駅周辺などを見回り、ホームレスにおにぎりなど、食事を配る活動を行っている。」

記者「こうやって寄付が寄せられるんですね。」 男性「マスクかなり出回ってきてますからね。」

ナレ「政府が配布した布マスクなどが、大量に寄付されてくる。生活困窮者たちに毎日配っている。こうした事態が続くと、彼らの事実はますます難しくなると、笠井代表は話す。」

笠井代表「しっかりとした対策を取って行かないと、また彼らが路上生活になってしまうわけですね。なってしまっ、この20数年やってきたことが、全く振り出しに戻ってしまう。」

(CM)

ナレ「新型コロナウイルスの肺炎で亡くなった、女優の岡江久美子さん。初期の乳癌で放射線治療を受けていた。」  
福岡市在住の乳がん患者の女性「放射線受けたから、あーやってかかりやすくなったのかなーって、岡江さんのニュースを見て、そう思ったんですけど。」

ナレ「乳がんで手術と抗がん剤治療を受けた女性だ。これから放射線治療に入るという。」

女性「退院した次の日にですね、三十九度出たので、一気にコロナにかかったと思って、すごい心配になって、救急に行ったんですけど、訳分らない熱とか出ると、これはコロンのなのだろうか、何なんだろうかと思って。」

ナレ「がん患者が抱える不安とは。国立がん研究センター東病院の、肺がんと感染制御、それぞれの専門医に聞いた。」

膳場「受けている治療によって、その、感染症にかかりやすくなってどうかってことは」

国立がん研究センター東病院呼吸器外科坪井正博科長「化学療法の場合はその、免疫がすごく落ちるんですね。治療してから10日目から2週間くらいになると、数倍、4倍とか5倍くらいリスクが高まるんじゃないかと、感染リスクが高まるんじゃないかって言われているんで、手術や放射線はまあ、その程度によると思うんですよ。癌があるかないかっていうので、リスクを考えるよりは、やはり自分ががん患者であれば、どういう治療が行われているか、やったかとか、そういうこととあわせて、主治医の先生によく聞くっていうのが、リスクを評価する上で、重要じゃないかなって、思いますけども。」

ナレ「新型コロナ感染症に関しては、これまで高齢であること、糖尿病や心臓病など、基礎疾患があることが、ハイリスクだとされてきた。ではがん患者が、重症化するリスクは、高いのか？」

坪井氏「大体肺がんになる人ってスモーカーで、タバコで肺が痛んでる人っていうのは、この感染症のリスクが高いと言われているので、」

ナレ「肺がんで特に、喫煙歴のある人は、要注意だ。さらに血液癌の治療では、造血幹細胞移植では、手術を行う際など、免疫力を著しく落とすことがある。そのため重症化リスクが高くなる可能性があるという。」

国立がん研究センター東病院 感染制御室 沖中敬二 室長「通常の人だったら、肺炎、ただの風邪で終わるような、そういったウイルスの感染症が、肺炎まで至ってしまうっていう症例が、多いということはよく知られているんですね。肺炎になってしまうと、普通2割から4割くらいの患者さんがなくなってしまうというようなことも言われていたりして、リスクが高いんじゃないかなという風に、懸念されますけども、」

ナレ「癌専門病院の一部では、新型コロナ患者の受け入れが始まっている。」

膳場「コロナ患者の対応で、対応によって、癌の治療、もしくは手術を先送りするっていうようなことってもう出ていますか？」

笠井氏「はい、あのー私たちのメインの病院の中央病院は、コロナの患者を受け入れているので、手術の数とか、特別な検査だとかは、少し控えるようにしていると聞いています。あと大学病院でも、受け入れているところは、手術を1/3、にするとか、減らしているっていう風に聞いています。」

ナレ「今後、さらに患者が増えれば、感染症の専門病棟を、複数作らなければいけないケースもあり得るといいます。」

沖中室長「想定外のことが起きて、がんセンターですら、がん患者さんを、に専念できないようになってくると、本来がんで、救えたような患者さんの命が、救えなくなるような状況は起き得ると、思います。」

ナレ「この時期、病院にいて、新型コロナウイルスに感染しないかという不安の声も聞かれる。」

笠井氏「一番多いのは、まず、いま病院に行かなくてもいいのかどうか っていうことですよね言われることもあります。再発しやすい人って大体、3ヶ月おきぐらいに見てるんですけど、そういう人については、頭良い人については、やはり再発リスクがあるので、早めに来た方がいいよとか、リンパ節が腫れているような、病期が少し進行している人においては、今うちの病院では出てないので、勇気を持ってやられたらどうですか？とお話はしてません。」

ナレ「こうした中、がん患者等の不安に、専門家が直接答える **Online** ディスカッションが行われた。参加者は500人を超えた。この癌専門医は、血液の癌で、造血幹細胞移植を受けたことがある。自らのがん体験をもとに、こう語った。」

米国・MD アンダーソンがんセンター 乳腺腫瘍内科 上野直人 教授「北風邪をひくと、40日から50日くらいかかるのです。治るまでに。普通の人より極端なことをしているかもしれないですね。実際に外に行ったら、全ての服は全部洗います。携帯とかの歌詞等も一切しないですね。そうしないと、一回なってしまうと、やっぱりちょっとやばいんじゃないかなっていうことで。」

ナレ「パネリストの一人、患者団体の代表は、こう訴えた。」

全国がん患者団体連合会 天野慎介知事長「僕らは頑張っても限界があるんだっていうことを、社会に発信していく必要がある。守りきれない人がいるんだっていうことは発信して、不要不急の外出を控えて頂くということは皆さんに強く言ってきたと思っております」

(CM)

VTRを受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返し広げられた。

膳場「ガンだと新型コロナウイルスにかかった時に重症化のリスクが、高くなるのか、非常に気がかりなところですが、国立がん研究センター東病院の、坪井医師によりますと、まだそれを示すが確たるデータは存在しないとのことでした。ただ肺に注目をいたしますと、例えば片肺を切除していたり、放射線治療で広い範囲に、肺

が痛んでいたり、あと、抗がん剤で免疫力が落ちている場合、肺炎になった時の重症化リスクは高いということです。癌の種類や進行具合、そしてどんな治療を受けているかによって、患者さんごとにリスクは変わりますので、主治医とよく相談して、対応を決めると良いというお話でした。あの一がんに限らずね、弱い立場にいる人たちへのしわ寄せがとにかく心配ですよ。」

日下部「やはりこう、助けてと声を出しにくい人たちのかすかな声にですね、耳を傾けるような社会になって欲しいと思うんですけども、こんな中で政府はですね、新しい生活様式というのをなんかこうずれているような気がするんですね。あの一特に気になったのはですね、食事、これは配達やデリバリーを推奨するってさらって書いてあるんですけども、注文が集中したら、配達する人の率がどうなるんでしょうか。あとですね、これも食事ですけれども、会話は控える。これはまだしもですね、食べることに集中しなさいって、これ余計なお世話ですよ。」

金平「あの5月4日のね、記者会見で、安倍首相は、中小事業者の休業による苦しみは痛いほどわかっていると言っていましたよね。それで驚いたことなんですけども、全国民に一律10万円の特別定額給付金ですね、あれは税金かからないんですよ。当たり前だと思うんですけど、ところが、都道府県の休業要請に応じたそういった事業者の、休業協力金とかね、あるいは持続化給付金ってのは、財務省の見解によると、税金かかるってんですよ。これは私ね、全くもって何を考えているのかっていう風に思いますね。」

この特集に当てられた時間は1444秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨  
特になし

#### 検証者所感

##### ・オープニング

金平キャスターは「世の中がコロナウィルス関係のニュースで覆われている間に国会である動きがありました。内閣の判断で検察庁の幹部の定年を延長できるようになる、検察庁法改正案の委員会審議が昨日始まりました。あえて申し上げますが火事場泥棒という言葉思い出しました。」とコメントしていたが、肝心の検察庁法改正案についてはこの番組中では取り上げられていなかった。そもそも定年問題についての法改正はまさに定年に差し掛かっている当事者からすると極めて重要な問題であり、この法案が通るかどうかで自身の生き方も大きく変わることである。そうしたことへの対応のための法律を「火事場泥棒」という言葉を使ってまで批判していたのとは裏腹に、報道特集内で検察庁法改正案については触れられておらず、拍子抜けだった。

##### ・【特集】緊急事態宣言延長で苦しむ人々

金平キャスターが「あの5月4日のね、記者会見で、安倍首相は、中小事業者の休業による苦しみは痛いほどわかっていると言っていましたよね。それで驚いたことなんですけども、全国民に一律10万円の特別定額給付金ですね、あれは税金かからないんですよ。当たり前だと思うんですけど、ところが、都道府県の休業要請に応じたそういった事業者の、休業協力金とかね、あるいは持続化給付金ってのは、財務省の見解によると、税金かかるってんですよ。これは私ね、全くもって何を考えているのかっていう風に思いますね。」とコメント指定が、財務省の見解は金平キャスターが不満に思うほどおかしいものなのだろうか。

国税という観点から言うと、全国一律の取り組みは一律で非課税対象としても問題はなさそうであるが、各都道府県独自の取り組みについても非課税ということにすると、取り組みが盛んな都道府県とそうでない都道府県

との間で税負担が変わってしまうことから、課税対象とする、というのは「全くもって何を考えているのか」というほどのものではないだろう。むしろ、財源が豊富でそうした政策を打てると都道府県の支援策が国税の非課税対象ということになると、財源の乏しい都道府県との格差は一層広がるのではなかろうか。